

「郷土芸能の集い」に参加しました ～地域に愛される『石見神楽部』～

12月12日（日）に『第21回郷土芸能の集い』が島根県立男女共同参画センターあすてらすで開催され、本校の石見神楽部が参加しました。この集いは、郷土芸能を実践している学校の発表の場として郷土芸能の継承並びに活性化を図るとともに、来年（令和4年）に開催される第46回全国高等学校総合文化祭（東京大会）郷土芸能部門の出場校を選定する重要な大会でもあります。郷土芸能部門では、神楽などの「伝承芸能部門」と「和太鼓部門」の2部門があります。本校の石見神楽部は、「伝承芸能部門」に出場しましたが、本校以外に浜田商業高校、江津高校、益田東高校のエントリーがありました。

また、今年度は本校が島根県高等学校文化連盟の郷土芸能専門部の事務局であるため、運営にも携わり、司会進行等のアナウンスも本校の部員で行いました。

本校の石見神楽部の部員は10名ですが、神楽が大好きな生徒ばかりで、日頃の練習も熱心に活動しています。日頃の活動の成果を存分に発揮した素晴らしい演技でしたが、惜しくも代表権を獲得することはできませんでした。

本大会の規定では、「伝承芸能部門」の演技時間は13分以内と決められています。本来の神楽の上演時間は演目によって様々ですが、30分以上要するものが多いそうです。それぞれの演目を規定時間内にどのようにアレンジしていくかも重要な要素です。同じ演目であっても、それぞれの学校の創意工夫で趣が異なるのも見る側の楽しみの1つであると感じました。

石見神楽は、地域との密着性が高く、地域のイベントには欠かせないものです。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域のイベントが中止となり対外的な活動の場が少なかったですが、今年度になって感染状況が改善されると、徐々にではありますが対外的な活動ができる環境になりつつあり生徒の活躍の場も増え喜んでいるところです。

文化祭や邇摩高フェアなどの校内イベントの他に広島県で行われた神楽甲子園、三瓶青年の家でのイベントなどにも出演しました。また12月9日に松江市で行われた全国高等学校文化連盟研究大会の開会式アトラクションでも出演依頼があり、全国に向け発信できたことをとてもうれしく感じます。

